特別支援学校における介護等体験の内容と事前指導のあり方

―体験学生および特別支援学校教師の意識調査の結果から―

和田 充紀・中林 由利子

富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究
第10号　通巻32号 抜刷　　平成27年12月

富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究 №10：123－130

〔資　料〕

特別支援学校における介護等体験の内容と事前指導のあり方

―体験学生および特別支援学校教師の意識調査の結果から―

和田 充紀・中林 由利子*

The Research about Contents and the Way of Advance Guidance of the Experience of the Care at Special Support School : Questionnaire Survey of Students and Teachers at Special Support School

Miki WADA & Yuriko NAKABAYASHI

摘要

介護等体験特例法が制定されてから17年間，様々な研究と実践が行なわれている。その現状を受けて，本研究では，介護等体験を実施した学生と受け入れ校の教師に対して介護等体験の内容や事前指導の意義についての調査を行い，今後の介護等体験と事前指導の内容を改善充実するための基礎資料とすることを目的とした。体験学生と受け入れ校の教師双方の意識調査の結果から，「体験後の満足感に繋がる活動内容の提供と環境設定の必要性」，「事務的内容に加え，障害について学ぶ機会を伴う事前指導の必要性」等が示された。

キーワード：介護等体験，特別支援学校，事前指導

Keywords：the experience of the care, special support school, advance guidance

Ⅰ．目的

介護等体験特例法が制定されてから 17 年が経つ。この間，特別支援学校及び社会福祉施設において工夫や改善を重ねながら実践が進められてきている。介護等体験については多くの研究や実践報告がなされており，特に特別支援学校における教育的意義を報告している先行研究もみられる。若山･平野･高畑･小林･武蔵･安達（2000）は，「介護等体験は直接的に学生が将来教職に就き，小学校・中学校において実際に障害のある児童生徒を指導する際に大変有用である。しかもそれにとどまらず，学生の教育観や障害児者理解にも影響を及ぼした」と述べている。一方，介護等体験の内容面と事前の情報提供などの事前指導面における課題も指摘されている（茅野・石原・永井・三品・舩渡川，2008；藤田，2009）。

現在，介護等体験に関する事前学習については，その内容などに関する規定はない。柏崎（2014）は，「体験活動を有意義な学びとするためには，その体験に関する情報を事前に学んでおくことが望ましい」と述べており，実践女子大学では平成 24 年度から介護等体験及び事前学習が単位化されている。

介護等体験特例法が制定された当時，受け入れ校の態勢や実施上の課題を検討するために，あるいは，体験の意義を検討するために様々な調査研究が行なわれた。笠原・大野・安東・河合（1999）は，実施上の課題の一つとして，事前指導の充実や体験内容などのマニュアルの必要性を指摘した。それを受け，高畑･若山･平野･小林･武蔵（2000）は，全国社会福祉協議会（1998）作成の事前資料や事前学習用資料「フィリア」(全国特殊学校長会，1998)，「手引き」（横浜国立大学教育学部人間発達科学部学校教育課程，1999）などを参考として「附属養護学校版介護等体験ガイドブック」（富山大学教育学部附属養護学校，1999）を作成した。

富山大学人間発達科学部附属特別支援学校では，この「附属養護学校版介護等体験ガイドブック」（2005 年より「附属特別支援学校版介護等体験ガイドブック」と名称変更）を活用して事前指導にて介護等体験の意義や障害児との接し方を伝え，また，受け入れ態勢の整備や学生が体験する活動内容の見直しなどを行なってきている。

このように，これらの先行研究，調査結果，を経て事前指導用の資料が作成され，介護等体験の内容や事前指導のあり方について検討や改善が加えられながら実践が進められてきている。

富山大学人間発達科学部附属特別支援学校では，介護等体験が施行された直後の 2000 年に，学生と受け入れ校の教師それぞれに対しての意識調査を実施している。しかしながら，「附属養護学校版介護等体験ガイドブッ

* 富山大学人間発達科学部附属特別支援学校

表１　学生向け介護等体験アンケートの調査項目

調査項目	調査内容
1.学生本人について	1.1.性別　1.2学年
2.介護等体験内容について	2.1実施時期　2.2体験内容
3.不安について	3.1不安の有無　3.2理由　3.3不安解消の有無　3.4不安解消の理由
4.満足度について	4.1満足の有無　4.2理由
5.特別支援教育の学習経験について	5.1学習経験の有無
6.事前指導について	6.1充実度　6.2理由　6.3不十分の理由　6.4必要な内容

表２　教師向け介護等体験アンケートの調査項目

調査項目	調査内容
1.教師本人について	1.1.性別　1.2所属
2.介護等体験の必要性について	2.1必要性　2.2内容
3.事前指導について	3.1充実度　3.2必要な内容

ク」（富山大学教育学部附属養護学校，1999）を活用した介護等体験の内容や事前指導の成果についてその後の調査は行なっていない。また，富山大学人間発達科学部では，2000年より，大学１年生が県内の小学校にて約半年間「学びのアシスト」「スタディ・メイトジュニア」として体験をする「学級担任論」を実施している。そのため，介護等体験以前に，特別支援教育に対して学ぶ機会があり介護等体験に意欲的に取り組む学生も増えてきている。一方で，以前と同様介護等体験が初めて障害のある人と接する機会でありとまどいがみられる学生もいる状況である。

介護等体験における学生のよい体験は，学生のためのみならず，特別支援学校の児童生徒にとってもよい学習の機会となる。また，学生にとっての正しい学びは体験当日だけではなく，その後の社会生活にも影響を与えることとなる。その体験を支える受け入れ校の教師にとっては大きな期待が寄せられることとなる。

これらの状況を受け，本研究は，介護等体験を実施した学生と受け入れ校の教師に対して介護等体験の内容や事前指導の意義についての調査を行い，今後の介護等体験と事前指導の内容を改善充実するための基礎資料とすることを目的としている。

Ⅱ．方法

１．アンケートⅠ（体験学生を対象とした調査）

（１）アンケート調査の作成

これまで，介護等体験を対象にして体験学生の意識の変化についてまとめた先行研究としては国立久里浜養護学校（1999）がある。また，介護等体験の内容や事前指導のあり方についてまとめた先行研究としては，若山ら（2000）と高畑ら（2000）がある。今回のアンケートを作成するに当たり，これらの先行研究を参考にして以下の点に留意して，調査項目を選定した。

第一に，学生の意識とそれに対する内容（不安，満足）を取り上げた。「体験前に不安を感じたか」，「体験後に満足したか」について５段階評定で質問した。

第二に，介護等体験の意義と体験内容（良かった内容，必要な内容）を取り上げた。この結果を受けて，介護等体験の活動内容のあり方について検討したいと考え，選択及び自由記述とした。

第三に，事前指導に関する内容（充実度，事前学習の必要な内容）を取り上げた。「事前指導が十分であったか」については５段階評定で質問した。

（２）調査内容及び項目の選定

以上の検討をふまえて，表１に示すようなアンケート調査を作成した。調査項目は「学生本人について」，「介護等体験内容について」，「不安について」，「満足度について」，「特別支援教育の学習経験について」，「事前指導について」の６大項目，15中項目で構成した。

（３）アンケート調査の実施

１）調査対象

2015年に富山大学人間発達科学部附属特別支援学校で介護等体験を行った富山大学人間発達科学部２年生105名を対象とした。そのうち94名の回収を得た。回収率は89%であった。

２）調査時期・手続き

前期の介護等体験が終了した2015年７月に実施した。配布は該当学生が受講している講義において担当教員の協力のもとで行なった。講義終了後に記入を依頼し，学部教務係の協力のもとで回収を行った。

実施に際しては，介護等体験の充実を目指すために活用する点，評価の対象にならず本音で記入してもらう点などについては文書にて説明を加えて，無記名にて記入を依頼した。

２．アンケートⅡ（受け入れ校教師を対象とした調査）

（１）アンケート調査の作成

これまで，学校の受け入れ方をまとめた先行研究としては笠原ら（1999）や武蔵・高畑・若山・平野・小林・安達（2000）等がある。今回の教師向けアンケートを作成するに当たり，これらの先行研究を参考にしつつ，以

下のような点に留意して，調査項目を選定した。

第一に，介護等体験についての評価を取り上げた。介護等体験の意義を感じているか，介護等体験の場としての役割を果たしているかについて5段階評定で質問した。

第二に，事前指導のあり方について取り上げた。事前学習の充実度について5段階評定で質問した。介護等体験の事前に習得して欲しい内容については選択及び自由記述とした。

（2）調査内容及び項目の選定

以上の検討をふまえて，表2に示すようなアンケート調査を作成した。調査項目は「教師本人について」,「介護等体験の必要性について」,「事前指導について」 の3大項目，6中項目で構成した。

（3）アンケート調査の実施

1）調査対象

介護等体験を受け入れた附属特別支援学校1校の教師28名を対象とした。そのうち，27名の回答を得た。内訳は,小学部所属8名,中学部所属8名,高等部所属10名,養護教諭1名である。

2）調査時期・手続き

前期の介護等体験が終了した2015年8月に実施した。配布および回収は附属特別支援学校にて介護等体験担当者が行った。

Ⅲ．結果

1．アンケートⅠ（体験学生を対象とした調査）より

体験学生を対象とした調査結果について，回答ごとの人数の割合は表3に示すとおりである。

（1）介護等体験前の不安の有無について

介護等体験前に不安を感じていた学生（69.1%）は，不安がなかった学生（21.3%）の3倍以上もいた。不安の理由としては,「障害のある人との接し方が分からない」が多かった。

（2）不安解消の割合とその理由について

介護等体験後に「不安が解消された」と回答した割合は,「全くそう思う」(15.4%),「そう思う」(55.4%)を合わせると約70%であった。その理由としては,「児童生徒と一緒に活動する」(67.4%),「児童生徒と会話をする」(60.9%）などが多く,「一緒に活動をする体験」が不安解消にとって効果的であることが分かった。次いで,「児童生徒の純真さを知る」(50.0%),「児童生徒の明るさを知る」(50.0%),「児童生徒の真剣な取り組みを見る」(43.5%）などが多く,「児童生徒の『特性』を知ること」が不安解消につながっている。次は,「教師の児童生徒に対する姿勢を見る」(23.9%),「教師からのアドバイスを受ける」(19.6%）などが挙がっており,「教師から的確な支援の仕方を学ぶこと」も効果的である。

一方,「不安が解消されなかった」と回答した割合は「思わない」(1.5%),「全く思わない」(1.5%）を合わせて3%であった。不安解消のために必要な内容を尋ねる質問に対しては,「児童生徒と一緒に活動する」,「児童生徒と会話をする」などの「一緒に活動を体験」が挙がっている。次いで「児童生徒の真剣な取り組みを見る」,「教師からのアドバイスを受ける」が挙げられており，活動内容として「一緒に活動をする体験」,「児童生徒の特性を知ること」,「教師から的確な支援の仕方を学ぶこと」の必要性が伺える。

（3）介護等体験の満足度とその理由について

次に，介護等体験に満足できたかどうかについての質問では,「全くそう思う」(31.9%),「そう思う」(50.0%)を合わせると満足できた割合が81%以上である。その理由としては,「児童生徒と一緒に活動する」(66.2%),「児童生徒と会話をする」(49.4%）などの,「一緒に活動をする体験」が効果的であることが分かった。また,「児童生徒の明るさを知る」(55.8%),「児童生徒の真剣な取り組みを見る」(53.2%),「児童生徒の純真さを知る」(45.5%）など,「児童生徒の『特性』を知ること」も体験を満足するために重要な内容である。次いで,「教師からのアドバイスを受ける」(39%),「教師の児童生徒に対する姿勢を見る」(37.7%）などの「教師から的確な支援の仕方を学ぶこと」も4割近くが満足できた理由として挙げている。

一方,「満足できなかった」と回答した人（4.3%）にどのような内容があるとよいかを尋ねたところ,「教師からのアドバイスを受ける」(75.0%）ことを希望する割合が非常に高かった。「教師から的確な支援の仕方を学ぶこと」の必要性が伺える。また,「児童生徒と一緒に活動する」(50.0%),「児童生徒と会話をする」(50.0%)なども多いことから,「一緒に活動をする体験」も満足度には必要な内容であることが分かる。

（4）事前指導について

事前指導が十分だったと思うかの質問に関しては,「全くそう思う」(13.8%）と「そう思う」(40.4%）を合わせて約54%が十分であったと回答している。

どのような内容がよかったかに対しては,「障害の理解」(43.1%),「障害児との接し方」(51.0%),「本校の所在地，場所の説明」(41.2%),「本校での体験内容の説明」(47.1%),「体験当日の日程や動き」(52.9%),「学校現場における基本的なマナー（服装，言葉遣い，あいさつなど)」(47.1%),「服務・勤務態度」(39.2%),「介護等体験の意義」(41.2%),「介護等体験ガイドブック」(43.1%）などいずれも同程度の回答であった。「障害に対する理解や接し方」と「事務的な内容」のどちらも事前指導の内容としては同程度に必要であったと考えられる。

一方，事前指導が十分ではないと回答した人は,「思

表３　学生向け介護等体験アンケート結果

割合		%
性別	男	46.80%
	女	53.20%
介護等体験前に不安があったか	あった	69.10%
	なかった	21.30%
	無記入	9.60%
不安の理由	障害のある人とどのように接して良いのかわからないので	58.50%
	障害のある人と接したことがなかったので	27.70%
	以前障害のある人と接して失敗したことがあるので	3.10%
	特別支援学校に初めて行くので	87.70%
不安は解消されたか	全くそう思う	15.40%
	そう思う	55.40%
	どちらともいえない	27.70%
	思わない	1.50%
	まったく思わない	1.50%
不安が解消された理由	児童生徒と一緒に活動したので	67.40%
	児童生徒の真剣な取り組みを見たので	43.50%
	児童生徒の純真さがわかったので	50.00%
	児童生徒の元気・明るさがわかったので	50.00%
	児童生徒と会話をしたので	60.90%
	教師からアドバイスを受けたので	19.60%
	教師の児童生徒に対する姿勢を見たので	23.90%
	障害について理解できたので	10.90%
	児童生徒との触れ合いだけでなく教材準備を手伝ったので	2.20%
	児童生徒との触れ合いだけでなく環境整備を手伝ったので	4.30%
不安解消のためにどのような内容を望むか	児童生徒と一緒に活動する	100.00%
	児童生徒の真剣な取り組みを見る	50.00%
	児童生徒の純真さを知る	0.00%
	児童生徒の元気・明るさを知る	0.00%
	児童生徒と会話をする	50.00%
	教師からアドバイスを受ける	50.00%
	教師の児童生徒に対する姿勢を見る	0.00%
	障害について理解する	50.00%
	児童生徒との触れ合いだけでなく教材準備を行う	0.00%
	児童生徒との触れ合いだけでなく環境整備を行う	0.00%
介護等体験に満足できたか	全くそう思う	31.90%
	そう思う	50.00%
	どちらともいえない	4.30%
	思わない	4.30%
	まったく思わない	0.00%
	無記入	9.60%
介護等体験のどのような内容がよかったか	児童生徒と一緒に活動する	66.20%
	児童生徒の真剣な取り組みを見る	53.20%
	児童生徒の純真さを知る	45.50%
	児童生徒の元気・明るさを知る	55.80%
	児童生徒と会話をする	49.40%
	教師からアドバイスを受ける	39.00%
	教師の児童生徒に対する姿勢を見る	37.70%
	障害について理解する	36.40%
	児童生徒との触れ合いだけでなく教材準備を行う	5.20%
	児童生徒との触れ合いだけでなく環境整備を行う	7.80%
介護等体験のどのような内容があると良いか	児童生徒と一緒に活動する	50.00%
	児童生徒の真剣な取り組みを見る	0.00%
	児童生徒の純真さを知る	0.00%
	児童生徒の元気・明るさを知る	0.00%
	児童生徒と会話をする	50.00%
	教師からアドバイスを受ける	75.00%
	教師の児童生徒に対する姿勢を見る	25.00%
	障害について理解する	25.00%
	児童生徒との触れ合いだけでなく教材準備を行う	0.00%
	児童生徒との触れ合いだけでなく環境整備を行う	0.00%
特別支援教育について学ぶ機会があったか	あった	62.80%
	なかった	34.00%
	無記入	3.20%
事前指導は十分だったか	全くそう思う	13.80%
	そう思う	40.40%
	どちらともいえない	27.70%
	思わない	10.60%
	まったく思わない	4.30%
	無記入	3.20%
事前指導のどのような内容がよかったか	障害の理解	43.10%
	障害児との接し方	51.00%
	本校の所在地、場所の説明	41.20%
	本校での体験内容の説明	47.10%
	体験当日の日程や動き	52.90%
	学校現場における基本的なマナー（服装、言葉遣い、あいさつなど）	47.10%
	服務・勤務態度	39.20%
	介護等体験の意義	41.20%
	介護等体験ガイドブック	43.10%
事前指導のどのような内容を充実すればよいか	障害の理解	64.30%
	障害児との接し方	85.70%
	本校の所在地、場所の説明	14.30%
	本校での体験内容の説明	42.90%
	体験当日の日程や動き	28.60%
	学校現場における基本的なマナー（服装、言葉遣い、あいさつなど）	14.30%
	服務・勤務態度	14.30%
	介護等体験の意義	28.60%
	介護等体験ガイドブック	0.00%
特別支援教育の理解に役立っている内容は何か	介護等体験	88.30%
	学びのアシスト	24.40%
	SMJ	29.80%
	学級担任論の講義	9.60%
	介護等体験の事前指導	44.70%
	無記入	6.40%

わない」(10.6%),「全く思わない」(4.3%) を合わせて 14.9%であった。どのような内容を充実すればよいかの質問に対しては,「障害児との接し方」(85.7%),「障害の理解」(64.3%) など「障害に対する理解や接し方」を事前指導で学びたいという要望が挙げられた。次いで「本校での体験内容の説明」(42.9%),「体験当日の日程や動き」(28.6%),「介護等体験の意義」(28.6%) などの「事務的な内容」が挙げられた。

(5) 特別支援教育の学習経験の有無による差について

介護等体験前に特別支援教育について「学ぶ機会があった」と回答した学生は 59 名 (62.8%),「なかった」と回答した学生は 32 名(34.0%),「無回答」は 3 名(3.2%) であった。それぞれについて, 体験前の不安の有無, 体験後の満足度, 事前指導の満足度について割合をもとめ, 比較したものが図 1・2・3 である。

図 1 より, 介護等体験前に特別支援教育について学ぶ機会がある学生の方が, ない学生よりも, 体験前に不安を感じる割合が若干低い。また, 図 2 より, 介護等体験後の満足度については, 介護等体験前に特別支援教育について学ぶ機会がある学生の方がない学生に比べて, 満足度が高い傾向が伺える。さらに, 学生が介護等体験前に特別支援教育について学ぶ機会がある学生の方がない学生に比べて, 事前指導が十分だと答えている (図 3)。

これらから, 介護等体験の前に特別支援教育について学ぶ機会があることは, 事前指導の内容に満足し, 不安感を軽減し, 体験後の満足感を助長することに, 若干ではあるがつながっているのではないかと考える。

(6) 2000 年のアンケート結果との比較について

2000 年のアンケート結果 (若山ら, 2000) と今回の結果について,「介護等体験前に不安があったか」「介護等体験に満足できたか」「事前指導は十分であったか」の 3 点について一覧にしたものが表 4 である。

介護等体験前に不安があった回答は, 2000 年では 84.1%, 今回は 69.1%であり, 不安感が減少していることが伺える。

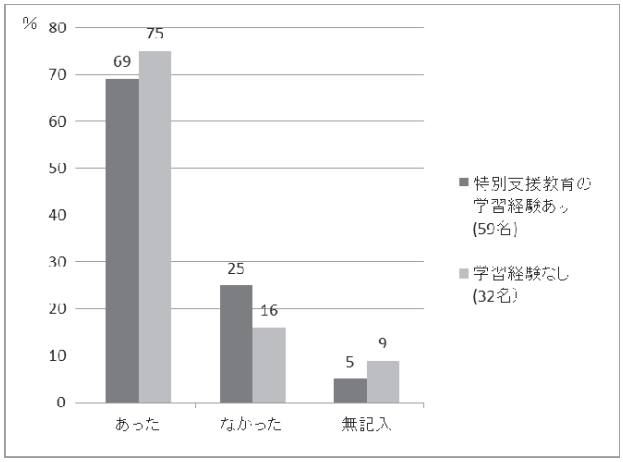

図 1 特別支援教育の学習経験の有無による介護等体験に対する不安

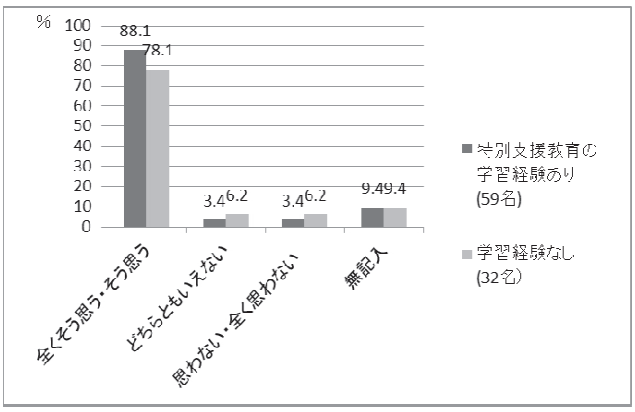

図 2 特別支援教育の学習経験の有無による介護等体験の満足感

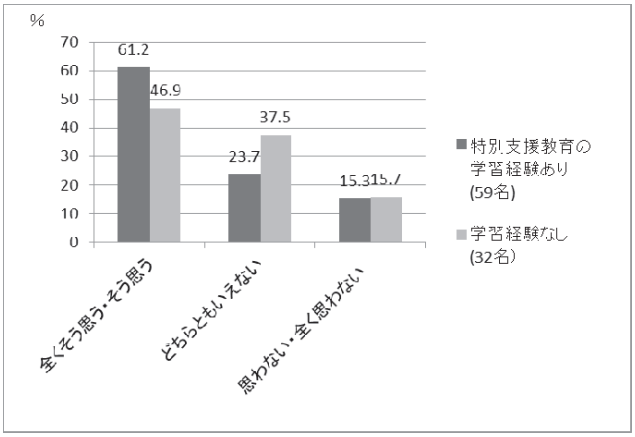

図 3 特別支援教育の学習経験の有無による事前指導の充実度

介護等体験の満足度については,「全くそう思う」,「そう思う」を合わせると 2000 年では 83.7%, 今回は 81.9%であり,「思わない」は 4.8%が 4.3%と, ほぼ同様の結果であった。

一方, 事前指導の満足度については,「全くそう思う」が, 2000 年では 4.30%に対して今回は 13.8%,「そう思う」が 29.0%から 40.4%。「全くそう思う」と「そう思う」を合わせると, 2000 年が 33.3%で今回は 54.2%である。このことから, 事前指導に対する満足度は 2000 年と比較すると今回は満足度が高くなっていることがわかる。

富山大学人間発達科学部附属特別支援学校では, 2000 年に作成した「附属養護学校版介護等体験ガイドブック」を改編しながら現在も事前学習に活用している。毎年, 学生の様子や問題点, 学生や教師の感想等を検討し, ガイドブックの内容や画像などを見直している。また, 事前指導の内容も, 画像を加えるなど学生にとって分かりやすく具体的に伝わるような工夫をしている。このようなガイドブックの活用と, 事前指導の内容充実が, 満足度の増加につながったと考えられる。

表４　2000 年と 2015 年のアンケート結果

		2000年	2015年
介護等体験前に不安があったか	あった	84.10%	69.10%
	なかった	15.90%	21.30%
	無記入	0.00%	9.60%
介護等体験に満足できたか	全くそう思う	31.70%	31.90%
	そう思う	52.00%	50.00%
	どちらともいえない	11.50%	4.30%
	思わない	4.80%	4.30%
	まったく思わない	0.00%	0.00%
	無記入	0.00%	9.60%
事前指導は十分だったか	全くそう思う	4.30%	13.80%
	そう思う	29.00%	40.40%
	どちらともいえない	34.80%	27.70%
	思わない	26.10%	10.60%
	まったく思わない	5.80%	4.30%
	無記入	0.00%	3.20%

２．アンケートⅡ（体験受け入れの教師を対象とした調査）より

教師向け介護等体験アンケートの結果を，表５に示す。

（１）介護等体験の必要性について

受け入れ校である，富山大学附属特別支援学校の教師は介護等体験をどのように受け取り，必要性を実感しているのかを把握するために「介護等体験の場としての役割を果たしているか」について尋ねると，27 名中 23 名の教師が役割を果たしていると回答した。介護等体験の必要性が理解され，附属学校としての役割が実感されていることを意味していると言えよう。

役割を果たしていると思う内容については，「児童生徒と一緒に活動する」ことが一番多く，次いで「教師の児童生徒に対する姿勢を見る」，「児童生徒と会話をする」，「教師からアドバイスを受ける」が挙げられた。児童生徒と直接関わることや一緒に体験することに意味があると考えていることが分かる。また，学生にとっては，教師の姿勢やアドバイスが必要であると考えている教師が多いこともわかる。これらより，「児童生徒と一緒に活動する体験や教師が適切な接し方についてアドバイスをする機会を設定すること」が学校としての役割につながると捉えていることが伺える。

さらに，児童生徒との直接の触れ合いだけでなく，「教材準備を行う」ことや「環境整備を行う」ことも役割を果たすことにつながるとの考えもみられる。児童生徒と直接関わることだけではなく，教材準備や環境整備の活動が児童生徒を知るうえで大切であり，教育を支える教師の重要な役割であると捉えていることが分かる。これらの活動を通して，児童生徒の実態や具体的な支援，取り巻く環境を知ることにつながると教師は考えていると推察できる。

しかしながら，これは学生のアンケートからは見られなかった視点である。学生が体験を通して児童生徒との接し方を学ぶことができるように，活動内容を工夫することに加えて，児童生徒と直接接するのではない活動の中にも，大切な意味があることを説明し伝えていくことの大切さも示唆されたと考える。

（２）事前指導の意義について

事前指導が十分であるかどうかの問いに関しては，27 名中 13 名の教師が「十分である（「全くそう思う」，「そう思う」を合わせて）」と回答しているが，7 名の教師は「十分でない（「思わない」，「全く思わない」を合わせて）」と回答している。

事前指導の内容でよい内容は「介護等体験の意義」や「学校現場における基本的なマナー」など事務的な内容に関することが多かった。しかしながら一方で，充実したらよい内容としても，「介護等体験の意義」や「学校現場における基本的なマナー」の同じ内容が挙げられている。態度面での課題がみられる学生がいるためと思われる。このことは，事前指導だけで解決する課題ではないため，教師が体験の中で教師や社会人としての模範となる姿勢を示し，学生を導く指導も合わせて行うことも望まれる。そのためにはガイドブックの内容や活用方法について特別支援学校の教師にも周知し，学校全体で学生を育てて行く姿勢も求められる。もちろん，介護等体験の事前指導以前に大学においても学生の意識と資質を高める工夫を講じる必要がある。

Ⅳ．考察

１．体験後の満足感に繋がる活動内容の提供と環境設定の必要性

学生を対象としたアンケートと，体験受け入れ校の教師を対象としたアンケートより，介護等体験の内容としては，児童生徒と一緒に活動をする体験的な内容が必要なことが分かった。児童生徒の様子を見守るだけではなく，一緒に活動をすることで，児童生徒のよさや特性について知り，接し方を学ぶことができ，体験前に感じて

表５　教師向け介護等体験アンケートの結果

人数		27
性別	男	7
	女	20
所属学部	小	8
	中	8
	高	10
	その他	1
学校は介護等体験の場としての役割を果たしているか	全くそう思う	5
	そう思う	18
	どちらともいえない	2
	思わない	1
	まったく思わない	0
役割を果たしていると思う内容	児童生徒と一緒に活動する	21
	児童生徒の真剣な取り組みを見る	13
	児童生徒の純真さを見る	5
	児童生徒の元気・明るさを知る	7
	児童生徒と会話をする	16
	教師からアドバイスを受ける	14
	教師の児童生徒に対する姿勢を見る	20
	障害について理解する	10
	児童生徒との触れ合いだけでなく教材準備を行う	10
	児童生徒との触れ合いだけでなく環境整備を行う	9
役割を果たすために必要な内容	児童生徒と一緒に活動する	0
	児童生徒の真剣な取り組みを見る	1
	児童生徒の純真さを見る	1
	児童生徒の元気・明るさを知る	2
	児童生徒と会話をする	1
	教師からアドバイスを受ける	1
	教師の児童生徒に対する姿勢を見る	1
	障害について理解する	0
	児童生徒との触れ合いだけでなく教材準備を行う	1
	児童生徒との触れ合いだけでなく環境整備を行う	1
事前指導は十分だと思うか	全くそう思う	1
	そう思う	12
	どちらともいえない	8
	思わない	7
	まったく思わない	0
	無記入	0
事前指導のどのような内容がよいか	障害の理解	2
	障害児との接し方	5
	本校の所在地、場所の説明	2
	本校での体験内容の説明	8
	体験当日の日程や動き	3
	学校現場における基本的なマナー（服装、言葉遣い、あいさつなど）	9
	服務・勤務態度	7
	介護等体験の意義	10
	介護等体験ガイドブック	6
事前指導にどのような内容を充実すればよいか	障害の理解	3
	障害児との接し方	4
	本校の所在地、場所の説明	0
	本校での体験内容の説明	4
	体験当日の日程や動き	2
	学校現場における基本的なマナー（服装、言葉遣い、あいさつなど）	6
	服務・勤務態度	3
	介護等体験の意義	6
	介護等体験ガイドブック	0

いた不安が解消されるとともに，体験後には満足感を得ると考えられる。

教師にとっても，学生の活動の様子を見て，学生の感想を聞くことで，介護等体験の意味や学校としての役割を前向きに実感することにつながっている。

学生が，児童生徒のよさや特性について知り，接し方について学ぶことができるような活動内容を選択・設定して学生に提供することが，受け入れ校である特別支援学校に求められる。また，活動の意味を学生が理解して取り組むように，環境整備などについても意味や意義を明確に伝えることが必要である。そしてもちろん，提供された体験の内容や機会を無駄にすることなく，全て児童生徒の学習や生活の向上に繋がっていることを実感しながら積極的に児童生徒と関わり自分から学ぶ姿勢が学生には求められる。

２．児童生徒への接し方についての助言機会の充実

児童生徒への接し方についてのアドバイスを求める学

生が多く，また，教師側も適切な助言が必要であると考えている。若山ら（2000）が「ほめ方や褒めるタイミング，問題行動の意味と対応の仕方等具体的な接し方を指導することが学生の満足度や充実感，障害児者理解を更に高めることにつながる」と指摘したように，体験活動中，あるいは事後指導として教師からのアドバイスをもらう時間や機会が設定できることが望まれる。

特に，学生にとって理解しやすい資料や教材などがあれば，短時間で，的確に伝えることができる。事後指導の実施を含めて，学生向けの教材と環境の整備を特別支援学校と大学とが連携して進めていくことが必要である。

３．事務的内容に加え，障害について学ぶ機会を伴う効果的な事前指導の必要性

事前指導の内容の改善やガイドブックの活用，介護等体験前に特別支援教育について学ぶ機会の確保等の理由により,学生の事前指導への満足度は高まってきている。しかしながら，特別支援学校においてはまだ課題も多くみられる現状である。学生が体験や活動に見通しをもつことができるように事前指導で動画や写真を活用すること，教育者として求められる態度（服装や言葉使い，マナー）について具体的に例を示しながら提示すること，教材教具を紹介し児童生徒の特性を伝えることなど，事前指導における具体的な工夫が望まれる。

また，受け入れ校教職員間での共通理解に加えて，大学との定期的な連絡報告など,学生と受け入れ校の教師,そして大学の全てにとって効果的な事前指導となるような体制及び内容の検討が望まれる。実践女子大学で実施されているように事前指導を授業として位置付けて行うことも考慮すべきである。

今回は,特別支援学校の体験について調査を行ったが,介護等体験は社会福祉施設においても５日間実施することとなっている。受け入れ校の特別支援学校と大学が連携して効果的な事前指導を行うことが，知識や態度の改善や向上に繋がり，社会福祉施設での介護等体験への効果も期待できる。

謝辞

本研究をすすめるにあたり，回答をくださいました人間発達科学部の学生と附属特別支援学校の竹村哲校長先生はじめ先生方に感謝いたします。

また，配布回収にご協力いただいた，堀田朋基教授，根岸秀行教授，藤本孝子准教授，増田美奈講師をはじめ，人間発達科学部教務係の皆様に心より感謝申し上げます。

附記

本研究は，平成27年度富山大学人間発達科学部学部長裁量経費『附属特別支援学校と連携した，特別支援教育に関する知識の少ない学生における「介護等体験」の質を高めるためのプログラム開発』の一部としておこなわれた。

文献

若山美津彦・平野隆志・高畑庄蔵・小林真・武蔵博文・安達勇作（2000）知的障害養護学校における介護等体験に対する学生の意識調査．富山大学教育学部附属教育実践総合センター紀要，1，45 － 50.

茅野理子・石原勝徳・永井明子・三品亨子・舩渡川勉（2008）特別支援学校における介護等体験の意義と内容－平成19年介護等体験学生の感想等から－． 宇都宮大学教育学部教育実践センター紀要，31，393 － 400.

藤田裕司（2009）養護学校における「介護等体験」． 大阪教育大学紀要，58（1），163 － 172.

柏崎秀子（2014）体験活動に向けた主体的な事前学習の開発とその効果－介護等体験の単位化－． 実践女子大学文学部紀要，56，31 － 41.

笠原芳隆・大野由三・安東隆男・河合康（1999）特殊教育諸学校における介護等体験受け入れ態勢と実施上の課題． 上越教育大学紀要，18（2），459 － 469.

高畑庄蔵・若山美津彦・平野隆志・小林真・武蔵博文（2000）知的障害養護学校での介護等体験に関する調査研究：調査概要及び事前指導のあり方．富山大学教育学部研究論集，3，45 － 54.

全国特殊学校長会（1998）盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック「フィリア」－豊かでかけがえのない体験を得るために－．全国特殊学校長会編著．THE EARTH 教育新社.

横浜国立大学教育人間学部学校教育課程（1999）平成11年度介護等体験の記録.

富山大学教育学部附属養護学校（1999）介護等体験ガイドブック編集委員会編著． 富山大学教育学部附属養護学校.

国立久里浜養護学校（1999）養護学校における介護等体験の実際 . 国立久里浜養護学校.

武蔵博文・高畑庄蔵・若山美津彦・平野隆志・小林真・安達勇作（2000）知的障害養護学校での介護等体験に関する調査研究（Ⅱ）：体験学生受け入れ態勢と実施上の課題．富山大学教育学部紀要，55，61 － 72.

梅澤嘉一郎（2008）介護等体験における自己達成感に関する研究－社会福祉施設での体験から－． 河村学園女子大学研究紀要，19（1），129 － 147.

（2015年８月31日受付）
（2015年10月13日受理）